

ボッカッチョ『アマゾン族について』訳解(下)

谷 口 勇

本稿は「人文科学研究」第25巻 第2号, pp. 213-252に発表した(上)の続編である。前号には若干の校正ミスがあるため、この機会に訂正しておく。

- p. 213, ℓ. 70 : fiammetta → Fiammetta
同, ℓ. 14 : capiletta → capilettera
同, ℓ. 18 : intoso → intonso
p. 216, ℓ. 2 : S・I・G・L → S・I・G・E
p. 227, ℓ. 下より 2 : ヒッボリュテ → ヒッボリュテ
p. 233, ℓ. 下より 1 : 彼らはわれらから → われらは彼らから
p. 252, ℓ. 下より 6 : バルパリュケ → ハルパリュケ
同, ℓ. 下より 6 : パルパリュコス → ハルパリュコス

なお, p. 214, ℓ. 下より 1-2 : [未見] を取り, (London : University of London/The Athlone Press, 1957) に訂正する。また, 本ファクシミリの冒頭部分は次のようになっている(前号に抜け落ちたため, 採録しておく)。

**Incomincia il libro dell'Amazonide/
ouero della guerra di Theseo/ducha d'Aethene/con
le donne Amazone/chomposto p messer Gio:
uanni di Bochaccio da Certaldo/cipta:
dino fiorentino/ad honore &
piacere di madonna
Fiammetta.**

Chome Theseo uedendo a' suoi fare falsa
pruoua/prima uerso Marte/ e poi a'
suoi caualieri turbato par-
loe/ gittandosi solo
sopra il lito.

(LII)

Theseo/che d'alta parte riguardaua
la falsa punta della greca gente/
di rabbia tutto i se si cōsumaua
maladicensi il duro cōuenēte/
e d'ultima uergogna dubitaua/
e quasi uscia p doglia della mente:
Per che idengnoso/al cielo il uiso tolto/
così parloe/alto gridando molto:

(LIII)

O fiero Marte/o dispectoso iddio/
nemico alle nostre armi/io mi uergongno
d'apirti cō parole il mio disio:
e certo piegho p cotal bisongno
nō auerai/ne sacrificio pio:
ma senza te la uictoria ch' agongno
ffaroe d'auere/o l' alma sanguinosa
ad Alcheronta n' andra dolorosa.

テセウスが部下に間違っ^た苦難を味わ
させたのを見て、まず^{マルス}軍神⁽¹⁷⁾に、次に
配下の騎士たちに狼狽して話しかけて
から、独りで海岸に駆け出した経緯

（５２）

テセウスは高所からギリシャ人の
極度の狼狽ぶりを眺めて、
怒りで我身をすり減らし、
厳しい運命を呪い、
止めの恥をかくのではと思い、
苦しみでほとんど正気を失いかけた。
ために、立腹しながら、天に顔を向け、
大声で叫びながらこう語ったのだった。

（５３）

おお残忍なマルスよ、われらの部隊に敵対せし
悪意に満ちた神よ、余の願望を汝に
打ち明けるのも 気おくれする。
この困窮の状態では、もうお願いもしないし、
汝は敬虔な生贄を受けることもあるまい。
それどころか、汝なくしても 余の切望する勝利を
かち取って見せようし、血まみれの魂は
苦しみながら^{アキロ}三途の川⁽¹⁸⁾へ赴かん。

(LIV)

Dpera omai i male i tuoi roffori/
e contro ad me le femine fa' forti
cò l' arte che in flegra i successori
d' Antheo uicesti/ e fa' ch' elle còforti
quàto tu sai/ e pìoui i tuoi uapori
sopra li miei ch' or fossero e già morti:
Deroe che sol mi credo me' ualere
che io nò fo cò tutto lor potere.

(LV)

Et tu/ Minerva/ che il sommo locho
trall' iddijs tien nella nostra cittade/
nò aspectar da me altar ne focho/
ne ch' io ti liti bestie in quātidade/
ne che p te io ordini alcun giocho
i honoz fatto di tua maestade:
Aiuta pure ad queste/ le quā' sono
teco d' un sepo/ e me lascia i bandono.

(LVI)

Poi si riuolse a' suoi cò uista uina/
cò piggior piglio/ e comicioe a dire:
hay uitupero della gente achypua
ou' e fuggito il uostro grande ardire?
e la forza di uoi tātò cactiua/
che molli donne ui faccian fuggire?
Tornate adunque nelle uostre chafe/
e qua le donne uenghan la rimase.

（54）

汝の怒りをもっとひどくしてくれ、
余に対して 汝は女どもを強くせよ、
——フレグラの野⁽¹⁹⁾においてアンタイオスの⁽²⁰⁾の
後継者たちに打ち勝った あの技^{わざ}をもって。
また 汝は彼女らを汝のなしうる限り支持せよ。
ところが われらに対してはみんな死んでしまうように
汝の怒りの湯気を降らせよ。
なぜなら余ひとりにて、彼女らの全力に勝ると信じているからだ。

（55）

そして汝ミネルヴァ⁽²¹⁾よ、神々にあって
われらの都市^{まち}で最高の位置を占める汝よ、
余から祭壇も灯明も期待しないことだ。
また動物^{いけにえ}をふんだんに殺すとか、
汝の威厳に敬意を表して
何かの競技を余が命ずるとかも 期待するなかれ。
この女どもを助けて結構、彼女らは
汝と同性なのだから。余は打ち棄ておいてくれ。

（56）

それから 部下のほうに元気よく振り向き、
ひどい目つきで言い始めた。
「ああ、アカイア人⁽²²⁾の生き恥さらし
きみらの蛮勇はいずこへ逃げ失せたのだ、
きみらの力はかくも劣悪なのか、
ひ弱な女たちが きみらを逃亡さすほどにまで。
さあ、きみらの家へ戻りたまえ、
そして残った女どもはこちらへやって来い。」

(LVII)

Il chiaro Appollo/e 'l Liel e 'l salso Mare
fien testimoni eterni ⁊ immortali
del vostro uile ⁊ tristo adopare:
⁊ portera la fama i vostri mali
cò perpetuo nome/⁊ uoi mostrare
fara a dito a genti disiguali
Dicendo: Dedi/i caualier dolenti/
che uinti fur dall' amazone genti.

(LVIII)

fuggiteui di qui/uitupati/
poi Marte piu che uoi donne fouene:
⁊ delli vostri arnesi dispogliati/
li lasciate uestire ad chi còuene:
or nò u' era e' miglior che honorati
di morte aueste sostenute pene/
Che cò uergogna indietro rinculare/
⁊ a donzelle lasciarui auanzare?

(LIX)

Entri nell' armi adunque chi n' e dengno:
l' altro le lasci che nò uole honore/
morte pigliando p fuggire s dengno:
⁊ ad chui piace piu con disinoze
uita/che pregio/nò segua il mio sengno:
uiuasi quato uuol senza ualore/
Ch' io faroe troppo piu solo honorato/
ch' essendo da cotati accompagnato.

（５７）

明るいアポロン⁽²³⁾と天と塩辛い海は
きみらの卑怯でふとどきな行動の
いつまでも変わらぬ立ち会い人となれ。
そして うわさはきみらの罪惡を 永遠の名を
もって伝えるだろう。そしてきみらを
さまざまな人びとに指でさし示しながら、
言うだろう——「見よ、気の毒な騎士たちを。
彼らはアマゾン族に打ち負かされたのだ」と。

（５８）

恥をさらして ここから逃亡したまえ、
マルスはきみらよりも 女どもを助けるのだから。
きみらの甲冑は脱いで、
然るべき人に着させよ。
ところで きみらには名譽の戦死を遂げて、
苦痛に耐えたほうが よかったのではないか、
——不名譽にも退却して
女どもが勝つがままにまかせるよりは。

（５９）

だから、ふさわしい人物が武器を取るがいい。
輕蔑を逃れるために死を選んで
名譽を得たいと望まぬ連中は武器を残せ。
称賛よりも恥辱の生活が大事な者は
余の旗の下につき従うに及ばない。
意味のない生活を思う存分 生きるがいい。
余は一人のほうがはるかに敬われるであろう、
こんな連中につき従われているよりは。

(LX)

Dz che aueste uoi facto se aduersi
ui fosser forse i Lenthauri usciti/
o i Laphity popoli diuersi/
turba dolente/o huomini scherniti:
credo nel mar ui sareste sommer si/
poi che p donne ui sete fuggiti:
Dz ui tornate/ & fate nouo ducha/
& Marte me/ si come uuol/ conducha.

(LXI)

Et questo decto/socto l' arme chiufo/
tirar fe' la sua naue i uer lo lito:
& / senza scala po2/ ne saltoe giuso/
ne si curoe pche fosse ferito
da molte parti: ma/ come ducha uso
di tal mestier/ piu si mostraua ardito/
Se riparando & di sopra & dintorno/
& fuor dell' acqua uscì senza sogiorno.

(LXII)

Nò altramēte si gittano i mare
li marinari il cui lengno/ gia rotto
per la fortuna/ sentono affondare:
& chi piu puo/ senza agli altri far motto/
briga notando di uoler campare:
che' Greci si gittar tutti di botto/
Dietro a Theseo/ nell' acqua lui uedendo/
ne ben ne male al suo dir rispondendo.

（60）

ところで、もしもケンタウロスたち⁽²⁴⁾や
ラピテス族⁽²⁵⁾といった諸民族がきみらに敵対してきたとしたら、
きみらはどうしたことだろう、
気の毒な鳥合^{うぐう}の衆よ、あざけられし男どもよ。
きみらはきっと海中にもぐったことだろう。
だって、きみらは女どもからも逃亡したのだから。
さあ、きみらは引き下がって、新しい道師を見つけたまえ。
マルスは余を 好きなように指揮してくればよい。」

（61）

こう言ってから、武具を締めつけ、
船を海岸に引き寄せさせ、
そして梯子も置かずに飛び降り、
いたるところを負傷したのも気にかけなかった。
こういう仕事に手慣れた指導者として
我身の豪胆ぶりを大いに発揮し、
上も周囲もうまく身を守り、
留まることなく、海から出てしまった。

（62）

嵐ですでに破壊された船の中の乗員たちも
沈没するのに気付いて
同じく 海中に身を投じた。
各人が他の者に話し掛けることなく 懸命に
泳いで 生き延びようともがいた。
ギリシャ人たちはみんな テセウスが
海中にいるのを見て、彼の後から一斉に飛び込んだ、
——彼の言にうんともすんとも答えずに。

(LXIII)

Et si gli auera uergongnia spronati/
cò le parole del fiero Theseo/
ch' egli eran presti ⁊ arditi tornati:
p che chiascun/com' piu tosto poteo/
entra chom' eran tututti bangnati:
⁊ la feriti al suo ducha si seo
Dicino/⁊ fero i su lito una schiera
subitamète/assai possente ⁊ fiera.

Lhome Theseo p battaglia ottenne il lito.

(LXIV)

Alta la schiera tal quale e' poteano
nel marin lito ou' essi eran discesi/
p cio che bene i luoghi nò sapeano/
ne feco aueruan tutti i loro arnesi
ad lor poter/le Donne sosteneano
d' alto uigor/ne' loro animi accesi/
Disposti ad far gran cose in pocha d' ora/
pur chelle (sic) Donne li faccian dimora.

(LXV)

Le Donne/i su cauai forti ⁊ isnelli/
giuano armate i habiti dispari:
⁊ que' correan come uolano ucelli/
facendo spesso li lor colpi amari
sentire a' Greci/che ne' campi belli
eran discesi ad pie/nò auea guari/
Dz qua oz la correndo ⁊ ritornâdo
spesso/⁊ rado i Greci molestando.

（63）

狂暴なテセウスの言葉で
彼らは羞恥心をかきたてられて、
気を取り直し、再び大胆になった。
かくて各人は できるだけ早く
海中に入った——全員濡れ鼠になりながらも。
そして負傷しながらも 指導者に近づき、
ただちに 強力にして勇敢な隊列を
岸边にて形成した。

テセウスが戦闘にて海岸を獲得せし経緯

（64）

彼らが降り立った海岸で
何とか隊列を立て直してから
——それというのも 彼らはその場所をよく知らず、
みんなが武具を身につけていなかったからだ——
力の限り女どもに抵抗した。
彼らの心は高い活力で燃えたぎり、
女どもが猶予してくれるなら、
少しの時間で大事をなそうと 心に決めていた。

（65）

女どもは 強力で敏捷な馬に乗り、
不相応の服で武装して 動き回った。
彼女らは鳥の飛ぶごとく走り、
少し前に 美しい野原に歩いて降りた
ギリシャ人たちに しばしば
苦い打撃を味わさせた、
——あちこち走ったり、ひんぱんに戻って来たり、
まれにギリシャ人たちを苦しめたりして。

(LXVI)

L'hoſi punghauano ad la morte lozo/
 poi che potuto nò auean la ſceſa
 cò le loz forze uietare ad colozo/
 li qua' /ſentendo ongnor creſcer l' offeſa/
 chieſer di poter gir ſanza dimozo/
 al' ducha loz/ uer quelle in loz diſeſa:
 E poi/appie/entr' alle Donne entraro/
 ⁊ ad combatter fieri icomìciaro:

(LXVII)

E' ferirono ad lozo arditamente/
 ſi chome que' che ben lo ſapean fare:
 ⁊ a loz colpi nò ualea neente
 di quelle Donne a' colpi riparare:
 ⁊ ſe nò foſſe ch' eran poca gente/
 ad riſpecto del loz multiplicare/
 Toſto l' aurebber del campo cacciate/
 o morte tutte/ouer preſe ⁊ legate.

(LXVIII)

Ma il numero di loz/ch' era ifinito/
 ongni hora la battaglia rinſeſcaua:
 queſto contra Theſeo/fiero ⁊ ardito/
 il campo lungamente ſoſtentaua:
 eſſo/ſanza riſoſo ⁊ iſpedito/
 ferendo/o2 qua o2 la correndo andaua:
 Et ad mirar di ſe ciaſcun facea
 che 'n quello ſtozmo mirar lo potea.

（66）

女どもはその力で ギリシャ人たちの
上陸を妨げることができなかったから、
こうして死ぬまで戦った。
ギリシャ人たちは ますます被害が増大するのを感じて、
護身のため彼女らに対して 躊躇なく自由に
攻撃しかけてよいかどうかを 指導者に尋ねた。
それから徒歩で女どもの間に入り、
果敢にも 戦いを開始した。

（67）

彼らはやり方をよく心得ていたから、
彼女らを大胆不敵にも 負傷させた。
女たちは打撃の取り返しを計ったが、
彼らの攻撃には 何にもならなかった。
彼女らの幾倍も勝る人数に比べて
彼らの人員が劣っていなければ、
すぐにも彼女らを戦場から追放するか、
それとも 全員を殺したり、捕らえたり、縛ったりしたことだろう。

（68）

だが 彼女らの人数は限りがなかったから、
戦闘はいつも再開された。
この人数のせいで 狂暴かつ豪胆なテセウスに対し
長く戦場を持ちこたえた。
テセウスは休むことなく すみやかに
打撃を加えながら あちこちと走り回っていた。
その群の中で 彼を見ることのできた者は
各々自分の良い所を見せようとした。

(LXIX)

Ne altramente infra le pecozelle
si ficcha il lupo/p fame rabbioso/
col morso strangolando o2 queste o2 quelle/
fin ch' (h) a satiato il suo disio guloso/
che faceua Theseo tra le Donzelle
a pie/cò la sua spada/furioso/
Coperto dello scudo/ongno2 ferendo/
o2 questa o2 quella misera uccidendo.

(LXX)

Thosi Theseo/fieramente andando
co' suoi compangni i fra le Donne ardite/
molte ne gian p terra scauallando/
e morte quelle/e quelle altre ferite
lasciando p lo campo:indi montàdo
sopra caua'/ch' a redine sbandite/
Le lor donne lasciate/si fuggieno
o2 qua o2 la/si come e' potieno.

(LXXI)

Et gia di lor gran parte eran montati/
p tal procaccio/sopra i buon destrieri:
e tutti i se di cio ricòfortati/
contra color feruan uolontieri:
e esse/lor uedendo inanimati
piu ch' al principio nò erano e fieri/
Temendo/comiciarono ad uoltare/
e 'l campo a' Greci del tutto lasciar.

（69）

小羊たちの間に 狼が
飢えて怒り狂って押し入り、
あちこちの小羊を咬んで絞め殺し、
その食欲を満たすのと同じように、
そのように テセウスは女どもの間で振舞った。
——盾で覆われ、剣で狂暴に立ちはだかり、
いつもあちらこちらの女を負傷させながら、
無惨にも殺すことにより。

（70）

かくて テセウスは狂暴にも
仲間とともに 勇敢な女たちの間に入って行き、
多くの女たちは 落馬して地上に横たわり、
死んだものや 怪我したものを
戦場に残した。それから 女たちは
手綱を離れた馬の上に乗る、
仲間を残したまま あちこちと
できる限りうまく 四散して行った。

（71）

ところで彼らの大半は うまく探し出してすでに
立派な軍馬に乗っており、
みんなは このことで元気づけられ、
彼女らを意のままに負傷させた。
そして 彼女らは 彼らが当初よりも
勇を鼓し狂暴になったのを見て、
怖じ気づき、逃げ始め、
ギリシャ人たちに戦場を そっくり残した。

(LXXII)

fuggiensi adunque i quel castel tututte/
e dietro ad esse/la Duchessa loro:
e sopra l' alte mura fur riducte
armate/sanza fare alcun dimoro/
fralor dicendo: Noi saremo distructe/
se ad le man puengnan di costoro:
Et la sconfitta lor quasi nò futa/
ad ben guardar si dier la lor tenuta.

(LXXIII)

Era la terra forte/e ben murata
da ongni parte/e dentro ben guarnita
p sostenere assedio ongni fiata/
lunga stagion/ch' ella fosse assalita:
poe ciascuna/dentro bene armata/
nò temeva ne morte ne ferita:
Chiuso le porti/al riparo intendeano/
e quasi i Greci niente temeano.

L'home Theseo/sconfitte le Donne e preso
il lito/s' acampoe (sic).

(LXXIV)

Al'home Theseo le uide fuggire/
i un raccolse tutta la sua gente/
e comandoe che le lasciasser gire:
poi se' cercare il campo prestamente/
e fece i corpi morti sepellire/
e le ferite assai benignamete.
Lascioe andar/sanza i'giuria nessuna/
la doue piacque di gire ad ciascuna.

（ 7 2 ）

かくて 彼女らはみんな城中に逃げ込み、
彼女らの後ろには 指揮者〔ヒッポリュテ〕がいた。
彼女らは留まることなく
武装したまま 高い壁の上に追いやられ、
互いに言うのだった——「この男たちと
素手で戦えば、打ち碎かれてしまうだろう」と。
それで 彼女らの敗北が まるでなかったかのように
自分らの陣地を しっかり守りにかかった。

（ 7 3 ）

その場所は強固で、四方が壁で
ふさがれ、内部はよく装備されており、
どんなに長く攻囲にかけられようと
何回でもそれに耐えられるようにできていた。
しかも各人はその中で しっかり武装していて、
死も怪我も怖れてはいなかった。
門を閉ざし、防御を心掛けていた、
まるでギリシャ人を全く恐れないみたいに。

テセウスがアマゾン族を打ち負かし、
海岸を占領して、野営した経緯

（ 7 4 ）

テセウスは女たちが逃げるのを見て、
自軍を全員一ヵ所に集め、
彼女らに勝手に行かせておけ、と命じた。
それから、戦場をすばやく調べさせ、
死者を埋葬させ、
負傷者に対しては侮辱^{はずかしめ}することなく
寛大にも行かせてやった
——各人の行きたい所へ どこなりと。

(LXXV)

E 'n cotal guisa auendo preso il lito
cò la sua gente/malgrado di quelle/
i su un picciol poggio fu salito
dirinpecto al castel delle Donzelle:
e comãdoe che quel fosse guarnito/
si che resister si potesse ad elle/
Sanza bactaglia/i fin che scaricate
sien le galee/e le genti posate.

(LXXVI)

Li Greci prestante scharicaro
tutte le nauì dellì arnesi loro/
e altri i brieue il poggetto afforzaro
quãto poteron/sanza alcun dimoro/
ne di ne nocte mai nò riposaro/
infin ch' ebber fornito lor lauoro:
Ben fer le Donne loro ingombro assai/
che d' assalirli nò calauan mai.

(LXXVII)

Poscia che' Greci furono afforzati/
sicche le Donne neente temeano/
e' lengni loro i mar furon tirati
p corseggiar dintorno oue poteano/
e i feriti furon medicati/
e quelli anco2/che 'l mar temuto aueano/
Posati furo/parue ad Theseo che stare
quiui poria piu nuocer che giouare.

（75）

こうして 彼女らの意志に反して
自軍とともに海岸を占領してから、
彼女らの城の向かい側の
小さい丘に登った。
そしてこの丘を防備するよう命じた、
——ガレー船⁽²⁶⁾から全員降りて
配置につくまで、交戦することなく
彼女らに 抵抗できるように、と。

（76）

ギリシャ人たちはすべての船から
すばやく彼らの武具を降ろし、
他の者たちは中断することなく 短い間で
できる限り その小さい丘を強化し、
彼らの仕事を果たすまで
昼も夜も 決して休まなかった。
女たちは 彼らに妨害し続け、
彼らへの攻撃を 決して止めなかったけれども。

（77）

ギリシャ人たちが しっかり守りを固めて、
女どもが全く怖くなくなり、また
船を海へ引き出して
周囲の可能な沿岸を航行し、また
負傷者の手当てをし、そして
海をまだ怖がっていた連中が
落ち着いてから、テセウスには、
ここに留まることが 益より害になるかも知れぬと思われた。

(LXXVIII)

Esso ch' ongnor/cò sollecita cura/
al suo piu presto spaccio piu pensaua/
ymaginoe che se' ntorno alle muta
di quella terra/il suo campo fermaua/
e' potrebbe aduenir/p l' aduentura/
che senza utile il tempo trapassaua/
Deroe che/quādo pure elli aduenesse/
pocho auea facto pche lor uicesse:

(LXXIX)

Et tornādoli ad mente come Alcide
a l' ydra/che de' suoi danni crescea/
auea la uita tolta/secu uide
che/la dou' era ypolita/uolea
sua pruoua far:pche/se lei pquide/
piu cōtasto nessun nō ui sapea:
Et/p cotal pensiero/il campo mosse
p cola gir doue ypolita fosse.

Lhome ypolita/sentendo la uenuta di
Theseo/aspectoe sicura l' asedio (*sic*).

(LXXX)

Alhoise la fama p tutto il paese
della sconfitta stata tostamēte:
p che/ciascuna se alle difese
si metteua/di se uelocemente:
ma quella chui tal chosa piu offese
ypolita e da creder certamente/
La qual/poi che chosi la cosa andare
uide/ppose di uolersi atare.

（78）

彼はいつも あれこれ気配りし、
できるだけ早く片づけようと 考えていたから、
こう想像した——もしこの土地の
城壁の周りに 陣地を張っていれば、
ひょっとして いたずらに時間が
過ぎてしまい、何にもならないことになるやも知れぬ、と。
なぜなら 彼がせっかくそこに到達したときに
彼女らに打ち勝つために ほとんど何もしなかったからだ。

（79）

傷口から生え出てくるヒュドラ⁽²⁷⁾の
生命をアルキデス⁽²⁸⁾が奪ったやり方を
テセウスは脳裏に浮かべつつ、考えた
——ヒッポリュテは自分の居場所で
決着をつけたがっているのだ、と。彼女が敗ければ、
もう たてつくことのできる者はいなくなろうから。
こんなことを考えながら、彼は陣地を動かした、
——ヒッポリュテのいるところへ行こうとして。

ヒッポリュテがテセウスの到来を感じとり、
攻囲を平静に待った経緯

（80）

敗北したとのうわさが国中に
すぐに 広がってしまった。
そこで 女どもはそれぞれ すばやく
自衛の準備に取り掛かった。
だが そういう敗北で ヒッポリュテが
最も気を悪くしたことは たしかに信じてよい。
彼女は事態がこのように進むのを見てから、
何とか身を守ろうと 決意した。

(LXXXI)

Ne fu stordita per quella sciagura/
ma le sue donne ad se chiamoe dicendo:
hor ciascuna cōuene esser sicura/
nō dico i campo Theseo cōbactēdo/
ma i difender ben le nostre mura/
le quali ad assalir uien/chom' io intēdo:
Percio che nō potra lunga stagione
dimorar qui p nulla cōditione.

(LXXXII)

Noi siam di cio ch' al uiuere (h)a mestiere
fornite bene: 7 la terra e si forte/
che nō e si ardito caualiere/
se al guardar uorremo essere accorte/
ch' appressar ci si possa/che pentere
nō nel facciam forse cō trista morte:
Quādo ci fieno stati/7 uederanno
il nostro ardir/p uiti se n' andranno.

(LXXXIII)

Dunque/se mai amaste libertate/
se ui fu caro mai il mio honore/
hora mostrate uostra probitate:
hora si scopra l' ardire e 'l ualore
uer chi s' appressa alla nostra cittate/
p uoler noi di quella trarre fore:
Eterna fama hora acquistar potete/
se ben contra Theseo ui difendete.

（８１）

この災難にも茫然自失せずに、
彼女は配下の女どもを呼び寄せて言った、
「さあ、各人は落ち着くがよい。
広野でテセウスと戦うのではなく、
われらの城壁を しっかり防御することだ。
私の理解では、城壁が攻撃されそうだ。
しっかり防御すれば、彼がここで そのまま
長らく留まることはできまいから。

（８２）

われらは立派に生きるための
十分な備えができています。しかも場所は堅固ときているから、
いかに勇敢な騎士が われらに近づこうと、
われらが用心深く監視しさえすれば、
おそらくは 惨めな死を味わさせて、
彼に後悔させることができるのだ。
彼らがわれらの所にやって来ても、われらの勇敢さを
見たならば、敗者のように立ち去るだろう。

（８３）

されば 貴女らが自由を愛し、
私の名誉が 貴女らに大事なものののなら、
今こそ 貴女らの勇敢さを発揮しておくれ。
われらをこの都市^{まち}から追い出したくて
ここに近づいている者に対し、
今こそ 勇気と真価を見せておくれ。
今こそ 永却の名誉を獲得することができるのだ、
——テセウスに対してうまく防御するならば。」

(LXXXIV)

Et questo decto/niente interpose/
ma cio che secho auera diuisato
fece/dando ordine a tutte le cose/
p le mura ponendo i ògni lato/
ad guardia/donne sanie ⁊ ualorose/
faccendo ancor ciascuno altro apparato
Lh' a tal cosa bisongnia/semprẽ andando
or queste or quelle tutte còfortado.

(LXXXV)

Et/p salute ancor delle sue genti/
gran doni a' templi poi fece portare/
l' iddiꝝ pregando che negli emergenti
casi douesser lor pietosi atare:
quinci/opando tutti altri argomti
ch' a sua difesa poteuan giouare/
Et guarnita cosi come poteo/
cò le sue donne aspectoe poi Chesco.

Lhome Chesco assedioe ypolita.

(LXXXVI)

PDi che Chesco si fu di quel locho
partito/onde le Dòne auera cacciate/
ad la citta sen Denne i tempo poco
doue ypolita ⁊ molte erano armate:
⁊ li giuroe/p Vulcan dio del focho/
di nò partirsi mai se còquistate.
Dallui (sic) nò fosser p forza o p pacti/
prima elli e' suoi ui sarebber diffacti.

（８４）

こう言うや 間を置くことなく、
決意したことを実行に移し、
すべてのことを指図しながら、
城壁の四方八方には
賢くて勇敢な女どもを 見張りに就かせ、
さらに こういうことに必要なほかの装備を
それぞれ整え、絶えずあちこち動き回り、
そここの女たち全員を 元気づけた。

（８５）

そして 自分の配下の女どもの無事を期して、
神殿に大きな贈り物を運ばせてから、
神々に祈った——この非常事態に際して
慈悲深くも自分らをお助け下さい、と。
それから、防御に役立つ
ほかの一切の手だてを施し、
できる限り 防備した上で、
配下の女どもと一緒にテセウスを待った。

テセウスがヒッポリュテを攻囲した経緯

（８６）

テセウスは女どもを追い出した
例の場所から 出発してから、
ヒッポリュテや 多くの女たちが武装していた
都市へと 瞬時のうちにやって来た。
そして そこで火の神ウルカヌス⁽²⁹⁾に誓った、
——自分と部下がここで壊滅する前に、
腕づくにせよ 妥協にせよ、自分によって
彼女らが征服されなければ、決して立ち退かない、と。

(LXXXVII)

E' fe' tender trabacche ⁊ padiglioni/
⁊ afforzar suo campo di stecchati/
a' caualier dicendo ⁊ a' pedoni
che si facesser ⁊ tende ⁊ fraschati/
⁊ che niuno di lor mai nò ragioni
di ritornare a' suoi liti lasciati/
Se ypolita pria nò si uincca/
così chome cò lor proposto auea.

(LXXXVIII)

E' fe' drizzar trabocchi/ ⁊ manghanelle/
⁊ torri p combattere ad le mura:
e fe' far gatti/ ⁊ alle mura belle
spesso facua cò essi paura:
⁊ cò baccaglia/ spesso le Donzelle
assaliua cò sua gente sicura:
Ma di tal cuor guarnite le trouaua/
che poco assalto o astro li giouaua.

(LXXXIX)

Elli stette più mesi ad tal berzaglio/
⁊ pocho u' acquistoe/ anzi niente/
fuor che paura ⁊ onta cò trauaglio:
p chelle (*sic*) Donne dentro assai souete
di morte si metteano ad ripetaglio/
predando sopra loro arditamente/
Lhotato s' eran già assicurate
p lo nò potere esser soperchiate.

（８７）

バラックや大天幕を設営させ、
陣地を柵で強化させてから、
騎士や歩兵には こう言いつけた、
「自分でテントやあずまやを設営せよ、
また、誰も後にしてきた祖国に
戻ろうなどとは 決して考えるでない、
自分がきみたちと一緒に決めたように、
ヒッポリュテが打ち負かされるまでは。」

（８８）

そして 城壁に攻め込むために
いろいろの投石機や塔を建てさせ、
きれいな城壁を破城槌⁽³⁰⁾でたたかせたりして、
これらで しばしば恐れさせた。
そして 練達の部下とともに しばしば
女たちに戦闘をしかけて 攻撃したが、
彼女らの肝は すっかり坐っていると見えて、
あれこれどんなに攻めても ほとんど効き目がなかった。

（８９）

彼らは 何ヵ月もこの標的を狙ったが、
ほとんど得るものはなかった
——恐怖と恥辱と苦痛のほかには。
それというのも、中の女どは しばしば
身命を賭して 危地に入り、
大胆にも彼らに襲撃を仕掛ける有様で、
自分らが打ち負かされることはあり得ぬと
すでに固く確信し切っていたからだ。

(XC)

Di cio era Theseo assai crucciato/
e nel pensiero sempre già cercando
come potesse abbatter loro stato:
un dì aduenne che e' /caualcādo
ad la terra dintorno/fu aduīsato
ch' ella s' aurebbe socterra cauādo:
Per che/auendo mastri di tali arti/
cauar la fe' da una delle parti.

Lhome ypolita scrisse ad Theseo.

(XCI)

Quando la Dōna del cauare intese
dubbioe/e tosto di mura nouelle
un cerchio dētro piu stretto cōprese/
il qual fer tosto e donne e damigelle:
appresso/inchiostro e carta tosto prese/
e/cō le mani dilicate e belle/
Una pistola scrisse/e trouar feo
due saue donne/e mandolla ad Theseo.

(XCII)

Eran le donne belle e di gran core/
cō compagnia leggiadra/disarmate/
uestite in drappi di molto ualore:
le qua' /giunte nel campo/fur menate
da' maggior Greci dauāti al Singnore:
al quale/assai dallui (sic) prima honorate/
Le lectere lor diero/e la risposta
addomādaron graziosa e tosta.

（ 9 0 ）

テセウスはこのことに 大いに悩み、
頭の中でいつも あれこれ追い求めていた、
——何とかこの状態を打破できないか、と。
ある日 たまたま付近の土地を
馬に乗っていて、この土地が
地下を掘り抜けることに気づいた。
そこで、そういう技術の職人もいたので、
一つの部分から その土地を掘らせた。

ヒッポリュテがテセウスに手紙を書いた経緯

（ 9 1 ）

女主人〔ヒッポリュテ〕がその穴掘りのことを知ったとき、
危惧し、すぐさま城壁の内側に新しく
より狭い輪を作らせた。
それはすぐに女どもや 少女らによって作られた。
それから インキと紙をすばやく取り、
繊細で ^{きやしや}美しい手で
一通の手紙を書き、信用できる
二人の 分別ある女を見つけて、その手紙をテセウスに送らせた。

（ 9 2 ）

彼女らは美人で、度量が広く、
しとやかなお伴を連れ、武装せずに、
極めて値打ちの高い服を着ていた。
陣地に着いてから、上役のギリシャ人によって
支配者〔テセウス〕の前に案内された。
彼から 彼女らはまず厚く敬意を払われてから、
彼女らの手紙を渡し、情け深い
返事を早くくれるようにと 要求した。

(XCIII)

Theseo le prese assai benigniamete/
e inanzi ad se chiamati i suoi baroni/
isieme cò molta altra buona gente/
disse: Singnozi/le donne Amazzoni
queste lectere mādān ueramente:
peroe l' uдите/ꝛ con belle ragioni
Lor si risponda:ꝛ poi le fe' aprire/
ꝛ legger/si c(h)' ongnun poteua udire.

Il tenore della lectera mādāda da
ypolita ad Theseo.

(XCIV)

Il lectera era di cotal tenore: [ne/
Ad te/Theseo/alto ducha d' Acthe=
ypolita/reina di ualore:
salute/se ad te dir si conuene/
ꝛ crescimento sempre di tuo honore/
sanza manchar di quel che m' appartiene:
Et pace cò ciascuno/ꝛ anchor mecho/
che (h)o ragion d' auer guerra cò techo.

(XCV)

Io (h)o ueduta la tua gente forte
ne' porti miei cò isforzata mano/
tal ch' essi aurebber paura di morte
data ad qualunque popol piu sourano/
fuor ch' alle donne mie/di guerra scorte
piu ch' altra gente che al mondo siano:
Le qua' di que' cacciaſti assai supbo/
delle qua' mecho una parte ne serbo.

（93）

テセウスは その手紙をていねいに受け取り、
配下の諸侯 ならびに他の多くの
善良な人びとを前へ呼び寄せて言った、
「諸君、アマゾンの貴婦人たちが、
ほんとうに こんな手紙を寄こしたのだ。
だから傾聴してくれ、そして美事な条理を尽くして
彼女らに返事をしよう。」それから 手紙を開封させ、
各人が聞こえるように 読ませるのだった。

ヒッポリュテがテセウスに送った手紙の
内容

（94）

手紙の内容はこうだった、
「アテナイの最高指揮官テセウス殿へ
勇敢な女王ヒッポリュテより。
こう申してよければ、貴殿の健康を祝し、
貴殿の名誉のいや増さんことを。
ただし 私のものを無くすることなく、
また各人や 私とも平和を保たんことを、
たとえ 私が貴殿と戦う正当な理由があるにしても。

（95）

私は貴殿の強い部下が
無理矢理 腕力で私の港に押し入るのを見ました。
彼らは どんな尊大な民にも
死の恐怖を与えたことでしょう。
ただし 世界の他の人たちよりも
戦さに機敏な 私の配下の女たちは別です。
貴殿は傲慢にも 彼女らをそこから追い出しましたが、
彼女らの一部は私と一緒に 残してあるのです。

(XCVI)

Et poi uenuto se' ad affediarmi
come nemicha d' ongni tuo piacere/
e (h)ai piu uolte prouate tue armi
ad le mie mura/e anchora potere
da quelle nò auesti di cacciarmi:
per che/per adempier lo reo uolere
Eh' (h)ai contro ad me/la terra fai cauare/
p poi potermi sanza arme pigliare.

(XCVII)

Certo di cio la chagion nò conosco/
ch' io nò ti offesi mai/ne son Medea/
che p inuidia ti Doglia dar tofcho:
anzi/la tua uirtute mi piaceua
quando si ragionaua talor noscho/
e di uederti gran disio auca/
Et anchor disiaua tua contezza/
tanto gradiua tua somma prodezza.

(XCVIII)

Ma di cio neggho contrario l' effecto
còsiderando la tua nuoua inpresa/
pensando ch' io nò abbia il difecto
còmeffo/e sia subitamente offesa/
sanza di te auere alcun suspecto:
di che nel core nò pocho mi pesa/
Et nò men forse p la tua uirtute/
che faccia p la mia ppia salute.

（96）

また貴殿は敵として 思いのままに
私に攻囲を掛けにやって来て、
私の城壁に貴殿の武器を幾度となく
試してこられたが、それでも城壁から
私を追い出すだけの力を持つことは おできにならなかった。
しかも貴殿は私に対して抱く悪意を
満たさんとして、地面を掘らせておられる、
——武器なしで 私を捕らえることができよるように、と。

（97）

もちろん 私はそんな目に合う理由が分かりません。
私は貴殿の気を悪くさせたこともなく、メディア⁽³¹⁾みたいに、
嫉妬から 貴殿に毒を盛りたいとも思いません。
むしろ ときたま私どもの間で貴殿の徳性の高さが
話題になるとき、それを私は喜ばしく思い、
貴殿に是非会いたいと 願っていたのです。
また 貴殿についての情報をも望んでいました、
貴殿の至高の武勲は ひどく好きでしたから。

（98）

でも その反対の結果が見られるのです、
——貴殿の新たな企てを考慮してみたり、
私が欠陥を犯してはいないし、また貴殿の
ことを少しも疑わないのに
不意に危害を加えられたことを 考えたりしてみると。
そのことで 私の心は少なからず圧迫されています。
それもおそらくは 私自身の無事のためばかりでなく、
貴殿の名誉のためにも 気掛かりなのです。

(XCIX)

Tu nò (h)ai facto chome caualliere/
che contro ad par piglia debita guerra:
ma/chome disleale huom baractiere/
subitamēte assalisti mia terra:
⁊/come uile ⁊ cattiuo guerriere/
mai nò pensasti/se' l' mio cor nò erra/
Che' l' guerreggiar cò donne/⁊ auer uictoria/
del uicitore e più biasmo che gloria.

(C)

Ben ti douresti di cio uergognare
se figliuol se'/com' di'/del buono Egeo:
ne si douresti cò arme appressare
ad le mie mura: ⁊ gia se ne penteo
chi (h)a uolute mie forze prouare/
peroe che mal sembiante mai nò feo.
Nessuna anchora delle mie donzelle/
ma tutte sono ardite/prodi ⁊ snelle.

(CI)

Ma poscia ch' (h)ai le tue forze prouate/
c' l' tuo pensiero (h)ai ritrouato uano/
diuerse uie (h)ai sotterra trouate
p auermi in prigionie ad salua mano:
ma nò fara cosi/i ueritate/
che gia c' e preso rimedio sourano:
Et di combattere i obscura parte
nò e di buon guerrier mestier ne arte.

（ 9 9 ）

貴殿は同等の者に対して しかるべき戦いを挑む
騎士のように行なわず、
不実な詐欺師のように、
いきなり私の土地に攻撃を加えられた。
また卑劣で 悪い戦士のように、
貴殿は——私の心が間違っていなければ——ちっとも考えられなかった、
——女性と戦ったり、勝利を得ても、
勝利者の名誉よりも 叱責になることを。

（ 1 0 0 ）

むしろ 貴殿はそのことを恥じるべきでしょう、
いやしくも善良なアイゲウス⁽³²⁾の息子として振舞うのであれば。
また貴殿は武器を持って 私の城壁に近づく
べきではないでしょう。げんに私の力を試そうとした人は
すでにそのことを後悔しています。
それというのも 私の配下の女性たちで
醜悪な顔つきをした者は 一人もいませんし、
みんな勇敢にして 敏捷だからです。

（ 1 0 1 ）

でも貴殿は力を試し
考えがむだなことが分かってから、
地下に別の道を発見し
私を簡単に捕虜にしようとしたのです。
でも本当に そうはならないでしょう。
なぜならすでに最高の解決法が取られているからです。
しかも 暗い部分で戦うのは、
立派な戦士のやることでも、作法でもありません。

(CII)

Dunque mi lascia i pace/p tuo honore/
 senza uoler piu tua fama guastare/
 ch' io ti pdonò ciaschun disinore
 che facto m' (h)ai o mi uolesti fare:
 ⁊ se nol fai/p forza ⁊ cò dolore
 io ti farò la mia terra sgombrare/
 Ne qui mi trouerai qual festi al lito/
 p ch' io ti giucherò d' altro partito.

Lhome Thesco rispose ad ypolita/
 ⁊ mostroe alle messaggiere
 le caue.

(CIII)

O Vado Thesco la lettera ebbe udita/
 a' suo' baroni e' disse sorridendo:
 Beato me che campata (h)o la uita
 merce di questa Donna/ch' amonendo
 mi mada/accio che mia fama fiorita
 tralle genti dimori me uiuendo:
 Poi si riuolse ad quelle donne/⁊ disse:
 risposto tosto fia ad chi ne scripse.

Il tenore della risposta di Thesco.

(CIV)

E 'A cotal guisa se' scriuere allora:
 ypolita/reina alta ⁊ possente/
 la quale il popol feminil honora/
 Thesco ducha d' Acthene ⁊ la sua gente:
 salute/quale ella ti bisongnia hora/
 cioè la grazia mia ueracemente:
 Una tua lettera ⁊ messi uedemmo/
 per questa ad essa così rispòdemmo:

（１０２）

ですから、貴殿の名声を これ以上傷つけないで、
貴殿の名誉のためにも、私をそっとしておいて下さい。
私は貴殿が私になされてきたり、なさんとされている
いずれの侮辱行為も 赦してあげます。
でも それを聞き入れないというのでしたら、力づくでも、
苦しませてでも、貴殿を私の土地から 一掃させるつもりです。
ここの私は 海岸についたときとは違うのが お分かりでしょう。
私は貴殿を 別の敵対者と判断するでしょうから。」

テセウスがヒッポリュテへの回答を書き
使者たちに穴を示した経緯

（１０３）

テセウスは手紙を聞き終えたとき、
部下に向かい、笑いながら言った、
「余はついているよ。この婦人のお蔭で
生き延びた。おまけに 彼女は
余が生きながらえて、みんなの間で
余の名声为荣えるようにと 忠告までしてくれている。」
それら女たちに向かって言った、
「手紙を書いて寄こした人に、すぐこう伝えておくれ。」

テセウスの返事の内容

（１０４）

そこで彼は次のように書かせた――
「位高くて 強力な女王ヒッポリュテ殿、
女性たちや、アテナイの指揮官テセウスや、
その部下からも尊敬されている貴下に。
今こそ貴下に必要な健康を、
すなわち 朕の慈悲を 本当に送ります。
朕は貴下の手紙と使者を拝見し、
これに対して、次のごとく回答します。」

(CV)

Chi 'l nostro popol uccide ⁊ discaccia
dalle sue terre/ad noi fa uillania:
peroe/s' adoperiam le nostre braccia
in far uendetta/grande honoz ne fia:
ne uilta nulla i nostri cori ipaccia
se sotto terra cerchiam di far uia
Per tuo orgoglio uolere abbassare/
ma facciam quel che buon guerrier suol fare:

(CVI)

Lioe prender uantaggio/accio che' suoi
piu salui sieno/⁊ uinchasi il nemicho:
⁊ tosto ci uedrai ne' cerchi tuoi
della citta/nò migha come amico/
se nò t'arrendi tostamète ad noi/
uccidendo ⁊ tagliando:ond' io ti dico
Che 'l mio comâdo facci/⁊ aurai pace:
che i altra maniera nò mi piace.

(CVII)

Et/poi che l' ebbe scritte ⁊ suggellate/
le lettere donoe alle donzelle/
le quali auanti auea molto honozate:
⁊ ad cauallo poi sali cò quelle/
⁊ tutte le sue forze (h)a lor mostrate:
⁊ similmete en le caue cò elle
Entroe/⁊ fece lor chiaro uedere
le mura puntellate p cadere.

（１０５）

朕の民を殺し、祖国から敗走させる者は、
朕に対し侮辱を働いていることになる。
だから 朕の権力を行使して
復讐すれば、大きな名誉となろう。
朕の心は 卑劣な行為で悩まされてはいない。
地下に道をつくり、貴下の傲慢な意図を
へこませんとしているのだが、朕の行為は、
善良な戦士がいつもやっていることなのだから。

（１０６）

すなわち、部下が最も安全であり、敵が敗れるようにと
利点を引き出しているだけなのだ。
間もなく 貴下は都市^{まち}の城壁の中で
朕を見るであろう——決して友としてではない朕を。
即刻 朕に降伏しなければ、朕は
殺したり 切り刻んだりしようぞ。されば貴下に告ぐ
——朕の命ずるところをなせば、貴下は平和を得ん。
朕はほかのやり方を 取りたくはないのだ。」

（１０７）

それから 手紙を書き終え、封印した後、
それを女たちに託した。
彼女らは これまでいたく大事にされていた。
その後 彼女らと一緒に馬に乗り、
自軍をすべて 彼女らに披露した。
同じく 彼女らを引き連れて穴に入り、
彼女らにはっきりと見せてやった、
——支柱で支えられた、倒れかけの城壁を。

(CVIII)

Poi disse loro: **D**/messaggiere chare/
ad la Reina uostra tornerete/
e 'n uerita potrete raccontare
cio che aptamente ora uedete:
si che le piaccia di nō farmi fare
asprezza contro ad quātūque uoi sete/
Et cōtro allei (*sic*) la qual mi par ualente:
ch' io ne farei poi piu di uoi dolente.

Lhome le damigelle partendosi da **T**hesco/
tornarono ad ypolita.

(CIX)

L**E** damigelle alior preson cōmiato
dicēdo: Singnor nostro/uolentieri:
e nella terra p occulto lato
si ritornar/nō pe' mastri sentieri:
e alla Donna lor tutto (**h**)an contato
cio ch' (**h**)an ueduto in fralli lor guerrieri:
Et poi le lectere (**h**)anno presentate/
le qua' fur tosto lecte e ascoltate.

(CX)

Poi che di quelle ypolita il tenore
ebbe compreso/e l' dir delle donzelle/
nel cor senti grauissimo dolore:
e simile sentiron tutte quelle
ch' eran presenti/ch' auesser ualore/
pensose assai e nello aspecto felle:
Ma dopo alquāto ypolita/chiedendo
cō mano udirsi/icomicioe dicendo:

（１０８）

それから 彼女たちに向かって言った、「おお、親愛なる使者諸君、
諸君の女王の許に戻り、
諸君が今はっきりと見たことを
実際に語るがよい。そうすれば、彼女は
諸君らすべてに対してや、余には雄々しく見える
彼女に対して、余がひどい仕打ちを
するように仕向けたくはなくなるだろうぞ。
そんなことをして苦しむのは 諸君より余のほうがのだから。

女たちがテセウスの許を発ち、
ヒッポリュテのところに戻った経緯

（１０９）

女たちはそこで、いとまごいする際に
言った、「閣下、承知しました。」
そして 大道ではなくて、この土地の
隠れた側を通過して 帰って行った。
そして 女主人に 彼女らが戦士たちの間で見た
一部始終を物語った。
それから 手紙を差し出し、
それは すぐに読まれ、傾聴された。

（１１０）

ヒッポリュテは手紙の内容を知り、
女たちの言葉を聞いてから、
心中に激しい苦悩を感じた。
そして 出席していた お偉方の女たちもみな
同じように感じたのであり、
すっかり考え込んで、顔つきはけわしくなった。
だが 暫くしてから、ヒッポリュテは手で合図し、
傾聴するように要求しながら、語り始めた。

Diceria d' ypolita alle donne sue.

(CXI)

Agiarouedete/donne/ad qual partito
ci abbîa gl' iddi rechate/ e nò ad toz-
se di ciascuna q fosse il marito/ [to:
fratel/ figliuolo/o padre che fu morto
da tutte noi/nò saria stato ardito
Theseo mai d' appressarsi al nostro porto:
Ma/pche nò ci son/ci (h)a assaltate/
come uedete/ e anchora assediate.

(CXII)

Venere/giustamete ad noi crucciata/
col suo amico Marte il fauoreggia:
e tanta forza ad lui (h)anno donata/
che contro ad nostro grado singnoreggia
dintorno ad noi la citta adsediate/
e come uuole ongnora ne damneggia:
Et/pcio che uie piu che noi e forte/
se noi nò ci rendiam/minaccia morte.

(CXIII)

Peroe ad noi bisonogna di pigliare
de' due partiti l' un subitamente/
o contra lui anchora riprouare
le forze nostre i campo uirilmente/
o ad lui/poi ci uuol/ci uoglian dare:
p cio che qui piu tenerci niente
Noi nò possiam/che/come uoi udite/
le mura tosto in terra uederite.

ヒッポリュテが配下の女たちに語りし事

（１１１）

「みなの方よ、神々がわたしたちをどういう状態に陥れたかは
はっきり見ての通りだし、それも まちがってはいないのだ。
もしもここに各人の夫なり、兄弟なり、
息子なり、父親なり——わたしたち全員によって殺されて
しまったのだが——いたとしたならば、テセウスは決して
大胆にも わたしたちの港に近づくことはなかったろう。
しかし 彼らがいないものだから、ご覧のように、
わたしらに攻撃したり、いまなお攻囲を掛けている。

（１１２）

ウェヌス⁽³³⁾が正当にもわたしらに腹を立て、
友人マルスと組んで 彼の肩を持ったのだ。
そして彼にあんな力を与えてやったものだから、
彼は攻囲した わたしらの都市^{まち}の周囲で
わたしらの意志に反して、いばり散らし、
いつでも 意のままにこの都市^{まち}に損害を与えている。
しかもここでは わたしらよりもはるかに強力なため、
わたしらが降伏しなければ、殺すぞと脅迫している有様だ。

（１１３）

しかし わたしらには二つの意見のうちの
一つを即刻 採用しなければならぬ。
彼に対して 戦場で男のように
もう一度わたしらの力を試みるか、
それとも 止むなく彼に身を委すことにするか、だ。
ここではもう支えとなるものはないから、
あんたらが聞いたように、わたしらには 城壁がすぐに倒壊するの
を見ることしか できないからだ。

(CXIV)

E 'l dir che noi cò esso combactiamo
mi par che sia assai folle pensiero/
p cio che tutte quate conosciamo
la gente sua/ e lui ardito e fiero:
e se anchora ben ci ricordiamo/
e cò noi stesse uogliamo dir lo uero/
Noi il prouiamo nò (h)a molto anchora:
di che noi ci pentemo e pocha d' ora.

(CXV)

Et/oltre ad questo/egli (h)a seco l' aiuto
degli alti iddi/che noi (h)an p nemiche:
e noi l' auemo assai chiaro ueduto/
che oration/uigilie/ ne fatiche/
forza di corpo/o acto proueduto
campar nò ci (h)an potuto/che mēdiche
Della sua grazia esser nò ci conuengna/
se noi uogliamo che 'n uita ci sostengna.

(CXVI)

Peroe terrei cōsiglio assai migliore
renderci ad lui/che del ualor mōdano/
p quel ch' io senta/(h)a il pregio e l' onore/
e c/ad chi s' umilia/humile e piano:
e gia nò ci fara e' desinoze/
se uinte sian da huom cosi fourano/
Per cio c(h)' ongn' uom p femine ci tienc/
come noi siamo/e lui ducha d' Aethene.

（１１４）

また はっきり言って、わたしが彼と戦うのは、
相当にばかげた考えのように思える。
なにせ わたしらみんなも知ってのように、
彼の部下も 彼も 勇敢で残忍だからだ。
それにもし まだよく記憶していて、
わたしら自身で 本当のことを言う気ならば、
わたしらはまだつい先立って 彼を試したが、
暫くのうちに わたしらはそのことを後悔したばかりだ。

（１１５）

しかも そればかりか、彼は至高の神々の
助けを持っているが、わたしらには この神とは敵対している。
わたしらも 十分にはっきり見たように、
祈ろうが、断食しようが、努力しようが、
体力を使おうが、行動に訴えようが、
わたしが生き延びることはできなかった。ただ
彼の慈悲を乞うしかないのだ、
——わたしが生き永らえようと 欲するならば。

（１１６）

だから、わたしには彼に降伏するのが
一番良い考えだと思われる。なにしろ 彼は私の感ずる限り、
世俗の価値を評価し 尊んでいるし、
彼は 屈服する者には腰が低くて 優しいのだから。
また、わたしが これほど卓越した男に打ち負かされたとしても、
わたしらにとって 不名誉にはなるまい。
なにしろ いずれの男も、アテナイの指揮官たる彼も、
わたしがこのとおり ちゃんとした女だと見なしているのだから。」

(CXVII)

Tacquesi qui/ma un gran mormorio
in fralle (*sic*) donne surse/sci udita/
ch' una reputa buono ⁊ altra rio
cotal cōsiglio:ma nessuna ardita
e di dir contra o d' apzir suo disio:
p che cotal sentenza diffinita
Per le piu sagge fu che si mandasse
chi cō Theseo p lor pacti tractasse.

Lhome ppolita tractoe cō Theseo
⁊ poi li si arrende.

(CXVIII)

Poi che cotal sentenza fu fermata/
ppolita due donne fe' uenire/
Polipto ⁊ Dinastora:⁊ iformata
ebbe ciascuna di cio ch' (h)anno ad dire:
⁊ poi chellor (*sic*) liberta ebbe data/
quanta ne bisongnaua accio fornire/
Disse:Dmai/donna/ad uostra posta andate/
ma sanza pace qui nō ritorate.

(CXIX)

Fur costoro ad Theseo/⁊ e' cō esse:
⁊/dopo lungo d' una ⁊ d' altra cosa
parlar/fermarsì che esso prendesse
ppolita p sua eterna sposa/
⁊ chella (*sic*) terra p lui si tenesse
sotto le leggi della ualorosa
ppolita reyna:⁊ accordarsi
cō molti altri piu pacti/⁊ ritorarsi.

（１１７）

ここで彼女は黙ったが、女どもの間では
大きなざわめきが起き、そしてある者は
この考えを良いと見なし、他の者は悪いと
考えるという声が 彼女に聞こえた。しかし誰も
彼女に逆ったり、あるいは私見を開陳しようとはしなかった。
それで、最も賢明な女たちのために こういうように
決定された、——セテウスと彼女らの協定を結ぶ者を
派遣すべし、と。

ヒッポリュテがテセウスと協議し、それから
彼に降伏する経緯

（１１８）

こういう考え方に決着してから、
ヒッポリュテは 二人の女性——ポリスト
とディナストラ——を来させ、銘々に
何を言うべきかを 教えてやった。
そして 彼女らには実行するのに必要なだけの
自由を与えてやってから、言った、
「さあ、随意に行ってよろしい。
でも 平和をもたらさないのなら、ここへ戻っては来ないように。」

（１１９）

二人はテセウスの所に行き、彼は 彼女らと一緒にになり、
そして あれこれのことを長らく話してから、
決まったことは、ヒッポリュテを 彼が永遠の妻として
娶り、土地は彼の代わりに 彼女が所有するし、
そして有能な
女王ヒッポリュテの
法の下に置かれる、というものである。また
ほかの多くの協定に同意して、二人は戻った。

(CXX)

ypolita era ad marauiglia bella/
e di ualore accesa nel coraggio:
essa sembraua matutina stella/
o frescha rosa del mese di maggio:
giouine assai/e ancora pulcella/
riccha d' auere e di real lengnaggio/
Sauia e ben costumata/e p natura/
nell' armi ardita e fiera oltre misura:

(CXXI)

Ad chui le donne da Theseo uenute/
e ad molte altre/i pacti raccontaro
rechando ad tutte da Theseo salute:
il che fu alle piu gratioso e charo:
e poi che fur le parole compiute/
le donne l' arme di botto lasciaro:
Et ella comãdoe/p suo amore/
ch' a Theseo e a' suoi sia fatto honore.

Lhome Theseo/fermati i pacti/entro
nella citta:e riceuuto honoreuol:
mète da ypolita/la sposoe:
e i suoi caualieri spo:
saro dell' altre.

(CXXII)

Poscia che furono i pacti fermati/
Theseo co' suoi/môtati i su destrieri/
i piu di lor essendo disarmati/
ad picciol passo/e lieti i caualieri/
sanza contasto en la citta menati:
nella qual/riceuuti uolontieri/
Humili d' essa preser possessione/
sanza fare ad alcuna offensione.

（１２０）

ヒッポリュテは みごとな美人で、
優秀で、勇気に燃えていた。
彼女は朝の星か、または
五月の新鮮なバラに見えた。
非常に若く、まだ処女で、
金持であり、しかも 王家の血筋を引き、
賢明で礼儀正しく、本性上
剣術には大胆で、度外れに勇敢だった。

（１２１）

彼女に対して、またほかの多くの者に対して、
テセウスの所から戻った女たちは 協定を物語り、
テセウスから みんなへの挨拶を伝えた。
そのことは ほとんどの者にとって 有難く貴重なものだった。
そして 話がすっかり終わってから、
女たちは武器をだしぬけに放り出した。
すると 彼女は、どうかテセウスと その部下に
面目を立ててやってくれるように 命令した。

テセウスが協定を結んでから、^{まち}都市に入り、
ヒッポリュテからうやうやしく迎え
られ、彼女を娶り、また部下の騎士たち
が、ほかの女たちと結婚した経緯

（１２２）

協定が完了してから、
テセウスは 部下とともに軍馬に乗り
——部下のうちの多くの者は武装を解いたままで——
騎士たちは ゆっくりと楽しそうに、
妨害もなく^{まち}都市に案内された。
都市では快く迎えられ、彼らは
控え目に その都市を占領した、
——いかなる攻撃行動をすることもなく。

(CXXIII)

Incontro uenne/sopra un bel destriere/
al suo Theseo ypolita/reina:
e piu bella che rosa di uerziere/
cò lei ueniua una chiara fantina/
Emilia chiamata/al mio parere/
d' Ipolita sorella picciolina:
Et/dopo lor/molte altre ne uenieno/
ornate e belle quanto piu potieno.

(CXXIV)

E'n cotal guisa cò solenne honore
riceuetter Theseo e la sua gente:
ne fu guarì di li lontano Amore/
ma cò suoi dardi molte prestamète
e molti ancoza ne ferì nel core:
e sene andaron tutti lietamète
fino al palagio/e quiui dismòtaro/
e in su quel Theseo accompagnaro.

(CXXV)

Egli era bello/e d' ongni parte ornato
di drappi ad oro e d' altri cari arnesi/
per ongni cosa ricco e bene agiato:
ma Theseo gli occhi nò teneua actesi
accio (sic) guardar/ma/il uiso dilicato
d' ypolita mirando/cò accesi
Sospir dicea: Costei trapassa Helena/
cui io furtai/d' ongni bellezza piena.

（１２３）

女王のヒッポリュテは 美しい軍馬に乗り
テセウスに会いにやって来た。
また 庭のバラよりも美しい、
エミーリアと呼ばれていた 可愛い女の子も
彼女と一緒にやって来た。私見では
ヒッポリュテの妹らしかった。
彼女らの後からは ほかに多くの女たちがやって来た、
——できる限り 美しく化粧して。

（１２４）

こうして 彼女たちは莊重に敬意を払いながら
テセウスとその部下を 迎え入れた。
それから あまり経たないうちに、愛神⁽³⁴⁾は
その矢をもって すぐさま多くの女や、さらには
多くの男の心を傷つけた。
そして 男たちはみんな喜々として
宮殿にまで行き、ここで馬から降り、
テセウスを そこへエスコートした。

（１２５）

彼は美男子で、至る所を金色の絹布や
他の高価な武具で飾り、
あらゆるもので ふんだんに申し分なく裕福だった。
だが テセウスの目はあらぬものを眺めており、
ヒッポリュテの優美な顔に見とれて、
はてった嘆息まじりに 言うのだった、
「この女は あらゆる美に満ちあふれたあのレヘネ⁽³⁵⁾
——儂が奪ったあの娘よりもすごいわい。」

(CXXVI)

El li auea gia nel cor quella saecta/
la qual Cupido suole auer piu chara:
e seco nella mente si dilecta
d' auer p cotal Donna tãta amara
faticcha sostenuta: e lieto aspecta
d' auere in braccio quella stella chiara/
Darendoli colei assai piu dengno
acquisto che tututto l' altro rengno.

(CXXVII)

Le donne aueuan cambiat' i sembianti
ponendo in terra l' arme rugginose/
e tornate eran/quali eran dauanti/
belle/leggiadre/fresche e gratiose:
e ora i lieti motti e dolci canti
mutate auean le uoci rigogliosose/
E' passi aueuan piccioli tornati/
che pria nell' armi grandi erano stati.

(CXXVIII)

Et la uergongnia/la qual discacciata
auean la nocte orribile uccidendo
li lor mariti/lozo era tornata
ne' freschi uisi/gli uomini uedendo:
e si era del tutto trãsmutata
la real corte ad quel che prima/essendo
Sanza huomini le femine/parea/
ch' appena alcuna di loro il credea.

（１２６）

彼の心にはすでに、
クピド⁽³⁶⁾が最も大事にしている矢が射られていた。
そして 頭の中では喜んでいて、——この女性のために
大変な苦い苦勞に耐えてきたことを。
そして あの明かるい星を 腕の中に抱くのを
楽しく待つのがだった。
彼には 彼女はもう一つの王国全部よりも はるかに
価値ある獲物に思われたのがだった。

（１２７）

女どもは外見を一変し、
さびついた武器を地面に置き、
かつて そうだったように
美しく、しとやかで、新鮮かつ優雅になった。
そして 今やたくましい太い声を
楽しい冗談や 甘い歌に変え、
以前は武器を持ち 大股だった
足の運びも 小幅になったのがだった。

（１２８）

夫たちを殺した恐怖の夜に
すっかり解消していた羞恥心も、
男たちを目にしたときに 戻って来て、
爽やかな顔つきとなり、宮廷は
男たちのいなかった以前には
彼女らの誰もがほとんど
信じなかったほどにまで
何から何まで 完全に変わってしまった。

(CXXIX)

Ripresi adunque i lasciati ornamenti/
di Lytherea il tempio fero aprire/
ferrato ne' lor primi mutamenti:
li fe' Theseo ypolita uenire/
e dati sacrifici reuerenti
ad Venere/sposoe cò gran disire
ypolita/l' aiuto d' ymeneo
chiamando quiui i baron di Theseo.

(CXXX)

Molte altre donne ad greci cauallieri
si sposarono allora lietamente/
e p singnor li prefer uolontieri/
chom' auean gli altri auuti primamete/
cò iuramenti santissimi e ueri
lor pmertendo che/al lor uiuente/
Nella prima follia nò tornerieno/
e che lor chari sempre mai aurieno.

(CXXXI)

Tra l' altre belle uedoue e donzelle/
che fosser in quel locho/una ue n' era
che di bellezze passaua le belle/
chome la rosa i fior di primauera/
la qual Theseo/uedendola tra quelle/
fe' prestamente domandar chi era.
Decto li fu: Sozella alla reina/
e Emilia nominata e la fantina.

（１２９）

だから 放置した飾りも 再び取り上げられ、
キュテラの女⁽³⁷⁾の神殿も 以前彼女らが心変わりしたときに
閉じられていたのを 開けさせた。
テセウスは そこへヒッポリュテを来させ
ウェヌスに恭しく 捧げ物をし、テセウスの
部下たちの前で
ヒュメナイオス⁽³⁸⁾の助けを呼んで
大いなる欲求をもって ヒッポリュテと結婚した。

（１３０）

ほかの多くの女たちもそれで、ギリシャの騎士たちと
喜んで結婚し、
彼らを すすんで主人とすることを好んだ、
以前にほかの男たちを そうしたときと同じように。
敬虔極まる真正の誓いをもって、
彼らに同意した、——彼らが生きている限り、
以前の狂気には戻らないし、
いつまでも 彼らを大事にするだろうことを。

（１３１）

ほかにも美しい寡婦たちや 少女たちが
その場にいたが、春の花々をバラが凌駕するように
美しさで美女たちを超える
一人の女性がいた。
テセウスは 彼女を彼女たちの間に見て、
彼女が誰かと すぐに尋ねさせた。
返事はこうだった——「この子は女王の妹で、
エミーリアと呼ばれています。」

(CXXXII)

Diacque ad Theseo la bella Donzellecta/
nò men che alcuna altra che ui fosse/
anch'or chelli (*sic*) pareffe giouinetta:
e nella mente sua secho pposse
che ad Achate/sua cosa distrecta/
p moglie la dara: quindi si mosse/
Et al palagio real ritoznaro/
doue pien di letitia ongn' uom trouaro.

(CXXXIII)

Le nozze furon grandi e liete molto/
e piu tempo duroe il festeggiare:
e ciascun dalla sua fu ben raccolto/
e ad tutti pareua bene stare/
p che fortuna auea cambiato uolto:
e le donne sapean or chessi (*sic*) fare/
Se ristorando del tempo perduto
mentre nel reingno nò era huomo issuto.

Finisce il libro della guerra di Theseo
con le donne Amazone chomposto
p messer Giouanni di Bo-
chaccio da Certaldo.

Deo gratias. Amen.

（132）

テセウスは この美しい少女が
そこに居合わせた ほかのどの女性よりも気に入った、
——彼女はまだ 若く見えたけれども。
そして 心の中であれこれ思いめぐらした上、
自分の仕事を整理してから、
彼女をアカテスに 妻として与えることにした。
それから 出発して宮殿に戻り、
各人はそこでみんな喜びにあふれたのだった。

（133）

結婚式は盛大で 喜びに満ちており、
祝いは長く続いた。
それぞれの男は 相手の女に歓迎され、
全員が満足のていだった。
というのも、幸せで顔つきが 変わっていたからだ。
女たちは 今やなすべきことを心得ていて、
王国に男がいなかったときに失った
時間の埋め合わせをしたのだった。

テセウスとアマゾンの女たちとの
戦いについて、ジョヴァンニ・ディ・
ボッカッチョ氏の手になる書は
ここに終わる。

神に感謝を。アーメン。

〔訳 注〕

- (17) マルス アレスと同一視されるローマの軍神。当初は農耕に携わる特別の神だった。
- (18) アケロン 冥府を流れる川の一つ。渡し守カロンの舟で、死者の霊はこの川を渡るのである。
- (19) フレグラの野 オリュンポスの神々と巨人^{ギガス}たちが戦った野。複数形で“フレグライ”とも呼ばれる。
- (20) アンタイオス ポセドンと大地ガイアの子で巨人。リビュアに住み、行きかう旅人にレスリングを挑み、つねに勝った。
- (21) ミネルヴァ 家政を司るローマの女神。早くからアテナと同一視された。
- (22) アカイア人 ホメロスの詩において、アキレウスの部下、引いてはアガメムノン配下のギリシャ軍の総称。
- (23) 明かるいアポロン ギリシャ語で、フォイボス（輝ける）・アポロン。この名から、紀元前5世紀頃には、太陽神と混同され、以後同一視された。
- (24) ケンタウロスたち 馬身で腰から上が人間の姿になっている一族。彼らはケンタウロスの子供たちである。同じくテッサリアに住む近隣のラピテス族との戦闘が有名。
- (25) ラピテス族 ケンタウロスと同じくイクシオンの子孫たちであるが、ケンタウロスが粗野で乱暴なのとは正反対に、おとなしかった。ケンタウロスとの戦闘はラピテスの王ペイリトオスとヒッポダメイア（またはデイタメイア）との結婚式で発生した。ケンタウロスは自分たちこそイクシオンの正統な後継者であるとの口実のもとに、ペイリトオスの王位を要求していたが、ペイリトオスはこの問題は解決済みと考えて、彼らを自分の結婚式に招待したのだった。ところがケンタウロスは飲み慣れぬ酒に酔い、ラピテスの女たちを犯そうとした（彼らの一人エウリュティオンは花嫁を誘拐しようとさえした）。乱闘が生じて、多くのケンタウロスが殺された。ケンタウロスたちはテッサリアを追われて、ペロポネソスへ行き、アルカディアまたはマレア岬に逃亡した。
- (26) ガレー船 ギリシャ語 γαλέη「イタチ」のように速いというところからこの名がついた。
- (26) ヒュドラ 胴体は犬の体をし、頭は5個から100個あると言われる水蛇。ヘラクレスはアルゴス近郊のレルネの沼沢地帯に住むヒュドラの頭を斬ったが、そこから新しく2つの頭が生え出た。しかし甥のイオラオスが手伝い、燃え木でその付け根を焼き尽くして、新しく頭が生え出ないようにした。

- (28) アルキデス アルカイオスの子孫。とりわけ、大英雄ヘラクレスを指す。レルネのヒュドラ退治は、彼の第二の難業である。
- (29) ウルカヌス 古代ローマの火の神。金細工と職人芸のギリシャの神ヘファイストスと同一視されている。
- (30) 破城槌 ariete ともいう。城壁を打ち破るために用いた（右図参照）。
- (31) メディア イアソンがグラウケと結婚するために自分を棄てたので、イアソンとの間にできた子供たちを使って、毒を塗った花嫁衣装をグラウケに送り、それを着た彼女はそのまま焼死した。
- (32) アイゲウス アテナイ王でパンディオンの子。テセウスの父。前注（1）参照。
- (33) ウェヌス 耕作地や庭園を手入れの行き届いた状態にして統轄するローマの女神。古くから、ギリシャのアフロディテと同一視され、その神話を与えられた。
- (34) 愛神 アモルまたはクピド（「欲望」）。ギリシャ語ではエロス（前注（8）参照）。彼の矢のあるものは先端が黄金でできていて、それで射られると激しい恋心を抱き、他の矢は先端が鉛でできていて、それで射られると、自分を恋い慕う者から心が離れてゆくとされた。
- (35) ヘレネ テセウスは親友ペイリトオスとともに、やもめになってから、自分たちの地位にふさわしいと考えられるような妻を得ようと約束し合った。そして二人はゼウスの娘を選び、まず、スパルタに出かけて、レダの娘ヘレネを奪ってテセウスの花嫁とした。ヘレネはまだ12歳にすぎなかったが、すでに美人の誉れ高かった。
- (36) クピド 前注（34）愛神を参照。
- (37) キュテラの女 エーゲ海の島キュテラはアフロディテ（ラテン名のウェヌス）女神の崇拝で有名だった。「キュテラの女」とはアフロディテ女神のこと。
- (38) ヒュメナイオス 結婚の行列を導く結婚の神。ヒュメナイオスはアテナイ出身の美青年だったが、貧しいために愛する娘と結婚できないでいた。ある日、海賊がアテナイの良家の娘たちをさらったとき、美しいヒュメナイオスも間違えられてさらわれた。その中にヒュメナイオスが恋する娘もまじっていた。ヒュメナイオスは海賊たちが眠ったすきをねらって全員退治し、無事に娘たちを親元へ返した。ヒュメナイオスの愛する娘の父は、娘が無事に帰ったことを喜び、ヒュメナイオスに娘を与え、彼の恋は成就した。



（破城槌）

『テセウス物語』の便概

男嫌いのアマゾン族が夫たちを殺し、ヒッポリュテを女王に選んだという伝説を要約したこの作品では、ギリシャ人たちが彼女らの憎悪に苦しんでいるため、テセウスが彼女らに戦争をし掛けて勝利する経緯が物語られる。降伏協定で、ヒッポリュテはアテナイのこの指揮官と結婚し、アマゾン族は戦士から女性に戻り、ギリシャの騎士たちの妻となることが決まる。アフロディテがアレスに勝ったわけだ。ヒッポリュテの妹エミーリアはアカテスに与えられることになる（以上は本稿（上・下）で採り上げた第1巻「アマゾン族について」の内容）。

テセウスがアテナイへ戻ってくると、エテオクレスとポリュネイケス〔二人ともオイディプスの息子〕との戦いでテバイで殺された男たちの寡婦が、テバイの新しい王クレオン〔彼はエテオクレスを支持してポリュネイケスの追放を助けた〕が彼女らの亡き夫たちの埋葬を妨害していると苦情を言っている。テセウスはクレオンに勝利し、これを殺す。テバイの捕虜たちのうちから貴族の若者アルキュタスとパレモンをアテナイへ連れてくる。

そうこうするうち、婚約者のアカテスに死なれたエミーリアが、4月から5月にかけて、二人のテバイ人の捕虜の近くの庭園の中を歌いながら朝の散歩をしているうち、彼ら二人は彼女に恋し、お互い同志が嫉妬することになる。アルキュタスは、アテナイから永遠に離れていること——違反すれば処刑——を条件に釈放される。

しかしアルキュタスは愛する女性の土地を後にしなければならないことに悩み、処々を遍歴してからアテナイへ舞い戻ってくるが、恋にやつれてすっかり変貌していたため、彼だと識別したのはエミーリアだけだった。

彼はテセウスのお気に入りとなることに成功する。そして人里離れた森の中で悲哀を打ち明けるのを習慣としていた。そこをある日、パレモンの召使いが通りかかり、彼のことに気づいて、主人に知らせる。

パレモンはアルキュタスがエミーリアの愛を獲得したものと思い込んで、脱獄して、アルキュタスのところにたどり着き、彼に決闘を申し込む。テセウスは二人を離れさせ、事実を知ってから、1年後に100名の騎兵の長として二手に分かれて戦い、二人のうち勝利した者にエミーリアを娶らせる、と約束した。

決闘の前日、アルキュタスはアレス、パレモンはアフロディテ、エミーリアは（どちらを選ぶべきか分からないため）アルテミス〔ローマのディアナ。弱い者を守護する女神〕に祈った。人食い馬をアレスによって差し向けられたパレモンは、この馬にかみつかれ、捕らえられてしまう。しかし、アフロディテがエリニュエス〔正義と復讐の女神たち。ラテン名「フリアエ」〕を送り込んだため、アルキュタスの馬はびっ

くりし、アルキュタスは馬の下敷きになってしまう。そのため、どんなに治療しても彼は回復しなかった。

彼はエミーリアを娶るが、死が近づいてきたとき、パレモンの愛情が高貴さにおいて自分のそれと同等であることを認めて、彼女に友人の嫁となることを要求する。アルキュタスの魂は第八天〔恒星天。九天界のうちの一つ〕に昇り、そこから人間の物事のみすばらしさを苦笑しながら見つめるのだった。

彼のためには盛大な葬儀が挙行され、それから、エミーリアとパレモンとの結婚式が祝われることになるのである。

最後にはアフロディテの肩入れした者がハッピー・エンドを迎えることになるのは、いかにも愛に生きた青年ボッカッチョの世界観を暗示していて、興味深い。

本作品がイタリア本国でもほとんど顧みられない有様であるのは、誠に残念というほかない。イタリアの叙事作品の原点として再評価される必要があろう。本作品とチャーサーとの関係については、別稿で論ずる予定である。

拙訳は平明な散文で大意を伝えるように努めた。解読に協力頂いた Giovanni Piazza 氏に深謝したい。

〔付記〕

文献三点を追加しておく。

A. Kissner, *Chaucer in seinen Beziehungen zur italienischen Literatur. Inaugural-Dissertation* (Marburg, 1867)

R. P. Miller, *Chaucer, Sources and Backgrounds* (New York:Oxford University Press, 1977), pp. 322-343に具体的説明がある。

W. Bonatti, *L'ultima Amazzonia* (Massimo Baldini Editore, 1989)

これは、神話の世界と思われた女性だけの一族が今なお地球上に実在していることを紹介した、驚くべき報告書である。

(1989.12.5 受理)